

主張

## 困難に打ち克つ

三田村 裕



全国の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

年初にあたり昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症への対応に追われた年だったことを改めて実感します。似た思いを抱かれている方は少なくないでしょう。

感染症拡大の防止のために行われた臨時休業措置により三月二日から三か月前後にわたって通常の学校教育が全国で停止するという前例のない事態、学校再開後も感染症拡大防止対策を講じながら教育活動を行う日々、迷い、考え、判断し、行動するなど、ひたすら駆けつけてきた。そして気付けば年末年始。誰もがこのような感じだったのでないでしょうか。

しかしそうでありながらも、全ての中学校で日々教育活動が行われている。そして、今後再び臨時休業措置が取られることがなければ、どの学校でも今年度実施すべき教育課程をほぼ終えられる見通しが立っている。これは尊いことです。全国二十数万人もの教職員一人一人の使命感や熱意、そして努力の賜物であり、その教職員に道を示し家庭や地域に丁寧な説明を行うなど学校経営に邁進してきた約九、〇〇〇人の校長一人一人の粉骨砕身の努力の成果です。まずはこのことを誇り、共にねぎらい、讃え合おうではありませんか。



一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止上の観点から、各学校の行事はもとより、校長会の活動においても、中止や内容・形態等を変えての実施などを余儀なくされるものもありました。特に「きのくに和歌山 古（いにしえ）の道から学びの丘へ」をスローガンに掲げ、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を主題にした第七一回全日本中学校長会研究協議会和歌山大会について、全国二、〇〇〇人以上の校長が和歌山に集合するという従来の形式で開催することを断念せざるを得なかったのは、実に残念なことでした。長い期間にわたり準備にあたってこられた大会実行委員長の楠見健先生をはじめとする和歌山県中学校長会や近畿中学校長会の皆様の心情を思うとなおさらです。

しかし、和歌山大会は中止となったわけではありません。全体協議や各分科会の研究成果等を大会誌としてまとめていただきました。ここに記された新学習指導要領の全面实施を踏まえた数々の研究は、生徒に予測困難な時代をも生き抜く力を育む使命を強く帯びた私たち校長にとって、とても意義あるものとなります。様々な困難にもかかわらず、大会の実施を諦めず御尽力いただき、全日中の大会を絶やさなかった和歌山県の先生方のおかげです。

さて、令和三年はどのような年になるでしょう。新型コロナウイルス感染症は依然収束の方向が見えず、今後新たな対応を求められることがあるやもしれません。しかし、どのような状況になろうと、私たち校長が緊密な協調を図り、力を合わせていけば必ず乗り越えられるものと確信しています。本年もどうぞよろしく願います。

（全日本中学校長会会長・八王子市立第七中学校長）